

2016 年度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	国際比較政治研究所
評価基準 2	教育研究組織
点検・評価項目(1)	2-1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
評価の視点	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
点検・評価項目(2)	2-2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 【点検・評価項目ごとの現状説明】

2-1	・本研究所は、平成 2 年 4 月に設置されて以後、規程の第 2 条に定められている理念・目的（「わが国を含む先進国の政治および発展途上国の比較研究・調査を行い、あわせてトランスナショナルな傾向をも研究・調査し、広く社会科学の発達に寄与すること」）に沿って、グローバリズムの下で生ずる国内および国際的な諸問題について国際・海外地域政治研究、地方自治・地方政府論、政策策定・履行過程・政策評価、および情報・メディア論をそれぞれ対象領域とする＜Global Studies＞、＜Community Studies＞＜Policy Studies＞、＜Media Studies＞の研究班（各班の代表は専任教員）を設けて研究活動と資料収集を進めている。 ・しかし、その後、専任教員の構成変化にともない、研究班のテーマと代表者・班のメンバーの専攻との間での齟齬も生まれているが、研究班の再編成はなされていない。 ・研究所の運営は、規程第 9 条に基づき、所長、研究班代表 4 名、政治学科主任、法学部長、大学院法学政治学研究科委員長（幹事は法学部事務長）からなる運営委員会が行っている。なお、2015 年から常設事務局（アルバイト職員）が運営委員会に出席している。 ・運営委員会は研究所規程第 10 条に基づき、(1) 研究所の事業および運営に関する事項、(2) 研究所の人事に関する事項、(3) 研究所の予算に関する事項、(4) その他所長から付議された事項を審議している。 ・客員研究員、兼担研究員および副研究員の委嘱については、運営委員会の承認を経て、学部教授会での承認を得ている。 ・前記 4 つの研究班は、2008 年に読み替えを行った後の本学の建学の精神「多文化共生を目指す新しい価値の創造」に向けて、それぞれの領域に即して「多文化共生をめぐる理念と現実の相克」を重要な問題関心として研究活動を行っている。 ・同時に、従来の班編成の下では学部生・院生の教育に対して研究所が果たすべき役割を視野に入れた研究活動を行うべく、2007 年度より特定の研究課題に沿った共同研究プロジェクトを複数設置する方式を採用している。 ・しかし、研究班とプロジェクトチームとの二重体制が生まれている。
2-2	・教育研究組織の適切性は、新年度のプロジェクト採択時および全学で行う自己点検・評価の実施にあわせて検証している。運営委員会がその主体である。 ・研究班の編成とそれぞれの班への専任研究員、兼担研究員、客員研究員および副研究員の帰属については、年度ごとに教授会の審議・承認を得ている。ただし、時代変化に即した研究班の改編やそれに伴う研究員の登録、変更などを定期的に確認する仕組みは整っていない。 ・研究所の事業内容と運営委員会の開催状況については年度末に教授会に報告し、審議・承認を得ている。 ・また、従来は、研究所の事業活動が年度末の学部教授会で報告・承認されるとともに、IICPS ニュース・レターで報告されてきたが、2015 年で IICPS ニュース・レターが廃刊になったので、現状では、教授会のみでの報告・承認となる。ニュース・レター廃刊後の代替措置は 2016 年度に検討する予定である。

【効果が上がっている事項】

2-1	
2-2	・

【改善すべき事項】

2-1	・組織の理念・目的と研究班の類型との間に、時代の変化に伴い、齟齬が生じているので、再編を検討すべきである。
2-2	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

A2-5	大東文化大学国際比較政治研究所規程
------	-------------------

B2-3	大東文化大学ホームページ（自己点検・評価活動） http://www.daito.ac.jp/information/examine/inspection/index.html 《既出》B1-16
B2-4	「大東文化大学将来基本計画 DAITO VISION 2023」 《既出》B1-1
〔追加資料〕	

Ⅲ【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標			評価				
			2014	2015	2016	2017	2018
中期目標 (2014～ 2018)	2-1 ・時代変化に対応した研究組織に改編する。	・研究班の編成が、時代に即したものに 変更し、改編されている。	→		C		
14 年度 目標	2-1 ・事業活動をより活性化する組織編成・運営を目指す。	・研究班と共同研究プロジェクトによる 研究の二重構造について、改善策の検討が始められている。	→	C			
15 年度 目標	2-1 ・事業活動をより活性化する組織編成・運営を目指す。	・研究班と共同研究プロジェクトによる 研究の二重構造について、改善策の検討が始められている。	→		C		
16 年度 目標	2-1 ・時代変化に対応した研究組織の再編のための議論を開始する。	・時代変化に対応した研究テーマを検討し、研究班の再編に関する議論が始められている。	→		A		
	2-2 ・研究班の再編に柔軟に対応できる所員の登録、変更を、定期的に確認する仕組みを検討する。	・研究班の再編に柔軟に対応できる所員の登録、変更を定期的に確認する仕組みの検討が開始されている。	→		S		